

西光寺だより

第四十三号 平成二五年 三月一日発行

◆三・四月の行事◆

三月 二十一日（金・祝）

仏教婦人会総会

午前十一時三十分から追弔会（正信偈）

午後十二時～ お齋

午後一時～ 総会

西光寺本堂

三月 二十九日（土）

追弔会・春季永代経法要

午後二時・午後七時

*なお追弔会は午後一時半より厳修致します。

西光寺本堂

四月 八日（火）

花まつり 午後二時～

西光寺本堂

四月 二十三日（水）

茨木東組第六期連続研修会 第三回

専念寺

●今月のことば●

今月より月参りでお勤めしているものについて学びたいと思つてい
ます。今月は『讚仏偈』について学びたいと思います。

『讚仏偈』は、浄土三部経『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説
阿弥陀経』のうち、最も重要な『仏説無量寿経』の中にあります。

『仏説無量寿経』は、親鸞聖人が「真実の教え」と讃えられた經典で
す。阿弥陀仏の浄土建立と私たち凡夫が極楽浄土に往生できるいわれ
が説かれています。

阿弥陀仏は、阿弥陀仏が成仏する以前の法蔵菩薩であったときに、
その師仏であった世自在王仏のもとで、本願をおこされました。

その時、法蔵菩薩が師仏の世自在王仏の気高い姿を仰いで、そのお
徳を讃え、師仏に向かって自分の信念と願いを述べられました。

法蔵菩薩にとって、素晴らしい師仏との出会いとは、まさしく素晴
らしい「仏法」との出会いだったのです。

その出会いの驚きと喜びを光に満ちた、み仏への讃歌として表現さ
れたのが、この『讚仏偈』なのです。

*法蔵菩薩とは・・・阿弥陀仏が修行をしていた時の名。

*世自在王仏とは・・・法蔵菩薩の師とされる如来。法蔵菩薩が「四
十八願」等として知られる願を述べた相手でもある。

光顔巍巍

世尊のお顔は気高く輝き

威神無極

その神々しいお姿は何よりも尊い

無与等者

何ものにも及ぶことなく

珠光焰耀

宝玉の輝きも

猶若聚墨

まるで墨のかたまりのようである

如是焰明

その光明には

日月摩尼

太陽や月の光も

皆悉隱蔽

その前にはすべて失われ

如来容顔

まことにみ仏のお顔は

超世無倫

世に超えてすぐれて比べようもなく

響流十方

すべての世界に響きわたる

三昧智慧

禅定と智慧

殊勝希有

とりわけすぐれて世にまれである

諸仏法海

明らかに思いをこらし

究其涯底

深くきわめ尽くしておいでのなる

世尊永無

世尊にはまったくなく

神徳無量

計り知れないすぐれた功徳を備えておいでのなる

功勳廣大

その功徳はとても広大であり

智慧深妙

智慧もまた深くすぐれ

震動大千

世界中を震わせる

齊聖法王

この世自在王仏のように

靡不解脫

さとのりに世界に至らせたい

戒忍精進

持戒と忍辱（にんにく）と精進

智慧為上

智慧を修めてこの上なくすぐれたものとしよう

吾誓得仏

わたしは誓う 仏となるときには

正覚大音

さとのりの声は高らかに

戒聞精進

持戒と多聞と精進と

威徳無侶

これらの威徳は並ぶものがなく

深諦善念

様々な仏がたの教えの海に深く

窮深尽奥

その奥底を限りなく

無明欲怒

愚かさやむさぼりや怒りなど

人雄師子

人の世にあつて獅子の様に雄々しい

光明威相

輝く光のお力は

願我作仏

願わくは わたしも仏となり

過度生死

迷いの人々ををすべて救い

布施調意

布施と調意と

如是三昧

このような禅定と

普行此願

必ずこの願を果たしとげ

為作大安

大きな安らぎを与えよう

一切恐懼

生死の苦におののく全ての人々に

続きは来月号に載せさせていただきます。

◆先月の報告◆

二月四日に常稱寺にて茨木東組第六期連続研修会を行いました。

第二回のテーマは「仏壇で朝晩お勤めするのは何のためですか。月

忌や年忌、葬儀、中陰は必要なのですか。報恩講や永代経法要の意味

は何ですか。」という内容で各班に分かれ話し合いました。仏壇と

は、あるのが当然・さまざまないのちの上で生かされていることへの

感謝のため・家の中心・先祖に思いを寄せる場所・よりどころである・

親が出され、月忌や年忌は節目の法要としてとらえ、葬儀はお浄土へ

の旅立ちとして人生で最も重要な儀式であるから必要である、等々の

話し合いが行われました。

まよめの法座では、加藤順教師のご法話をいただき、報恩講は生死

出離の迷いの道から出るため問い聞く場であり、また仏法・仏になる

ための経を聞く場として本堂があります。そして念仏で解放される行

ではなく聞く宗教・繰り返し返すことで身になる教えと説かれました。永

代経は阿弥陀様への必ず救って頂く感謝の気持ちと伝え、しばらくは

いで、解放された人生を歩む、その喜びを子や孫に伝えるための法要。

人生を安心して進んでいくための道を子から孫へ、代々伝えるもので

あると聴聞させて頂きました。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>